

基本理念	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	行動計画
声かけて、幸せ湧く和く画図のまち♪ ふれあい・たすけあい・ささえあい（愛）	ボランティア・担い手	若年層のボランティア・担い手不足 各種団体で養成されたボランティアの整理	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体（自治会・老人会・子ども会・婦人部等）加入者の減少 各種団体における役員のなり手不足 自治会への未加入世帯 近隣住民の関係が希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> 町内役員の世代交代（若い世代の自治会活動への参画） 次世代を担う世代が参加できるような行事の周知（情報提供） 近隣住民の支え合い（お互いが出来ることを出来るだけ） 自治会の全員加入を目指す（加入率の向上促進） 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの登録整理と活用（コーディネート） 近隣住民、隣保班での見守り活動 ふれあいいきいきサロンの継続・充実（eスポーツなど新しい活動を取り入れる）
	広報	校区社協や取り組みなどに対する理解が得られていない	<ul style="list-style-type: none"> 校区社協や地域活動に対する理解が得られていない 地域活動の情報発信ができていないため、興味・関心を持ってもらえていない 地域活動の担い手不足 	<ul style="list-style-type: none"> 自治協ホームページで校区社協や活動の紹介 楽しい行事や企画などを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいデイサービスの再開 江津湖ウォークラリーの継続 介護事業所との連携
	高齢者	高齢者問題（独居、認知症の増加、孤独死、虐待）の支援体制 健康、介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に対する理解不足（若い人の理解が必要） 他者との関りを拒む人がいる（老人会に入らない等） 個人情報の問題・情報の共有が難しい 支援する側の高齢化 公営団地等の老朽化（50年以上） 8050問題 買い物、重いごみ出しの問題 自助・共助の活動にあたり自身の健康維持 	<ul style="list-style-type: none"> 簡易な集いの場づくり（庭先等に集まり話ができる場が必要） 散歩しながら声かけ（見守り）、パトロールを心掛ける 校区社協で隣保班を活用した見守りチームを作る 高齢者、またその家族とのコミュニケーションの機会を増やす 買い物、電球交換など出来ることを支援 校区社協主催のふれあい・いきいきサロン及び介護予教室の継続 関係機関が開催するオレンジカフェへの協力 	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動支援者支援制度への登録勸奨、個人避難支援者への協力依頼 熊本市社会福祉協議会自主避難サポート（旧 高齢者SOSサービス）事業実施 障がい者相談支援機関との連携及び研修会の企画、開催
	障がい者	障がい者への支援体制、相談先が分からない	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの種別の把握が難しく、どう支援してよいか分からない 地域での支援には限界がある 個人情報の問題 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供ができる仕組み作り 当事者や家族とのコミュニケーションの機会を増やす 障がい者相談支援センターの出張相談・出前講座の開催（障がい者について、理解を深める機会の場の提供） 	<ul style="list-style-type: none"> 命のバトンの整備（民生委員を通じて現状把握） ジュニアヘルパーとの交流
	災害・防災	防災・日頃の備え・避難支援と体制（防災と福祉は密接）	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の支援、高齢者・障がい者等の避難支援体制が不十分 避難所が分からない、遠い 水害発生時は避難先となる高い建物がない 個人情報の問題がある 災害時要援護者避難支援プランの約8割に個人支援者がいない 	<ul style="list-style-type: none"> 校区防災連絡会との連携強化（地区防災計画） 町内の協力体制の構築 町内毎のハザードマップの作成 関係機関に協力してもらいSNSを活用する 町内での防災訓練実施（高齢者、障がい者等の災害時要援護者の参加呼びかけ） 水害時の予測、推移と避難経路の周知 子ども達に人命救助等防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 社協活動の広報（ホームページやSNS発信など）
	子ども・世代間交流	子育て世帯の繋がりの希薄化 世代間交流が十分でない	<ul style="list-style-type: none"> 町内によっては、地域の子どもの把握ができない 子育て世代は共働きで多忙のため、親に時間、心身の余裕がない 子育て世代の貧困問題 登下校時の安全確保 他者との交流を拒む人もいる（子ども会・自治会に入らない） 個人情報の問題（情報共有が難しい） 子ども神輿は30年続いているが参加人数が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> 親子や高齢者と子どもがふれあうイベントの企画・実施 昔遊び（しめ縄・竹とんぼ）で高齢者との交流を図る 関係機関協力のもと子ども食堂の企画、実施 挨拶・声かけの取り組み 下校時の声かけ、パトロール 世代間交流の中から担い手発掘 	